向き合って、学び合って、未来をつくる下永谷

しもながや

横浜市立下永谷小学校　学校だより　3月号

ヒントを出したんだ

校長　鈴木陽一

「学校には、体育をする広い場所があるんだよ。とヒントを出したんだ。だから正解できたよ。」と、1年生がそっと私に耳打ちしてきました。「学校には体育館がある。○か×か。」の○×クイズの問題の時でした。 保育園の園児と一年生との交流会をしているときの一場面です。園児に、1年生が一人か二人寄り添ってサポートしながら、会が進んでいきました。園児の皆さんは、緊張した顔つきでしたが、徐々にほぐれてきました。1年生は、小学校に入学することを少しでも楽しみにしてくれるよう会の内容を考えたようです。いつもより凛々しい自信にあふれた表情をしていました。たがいに耳打ちしたり顔を見合ってうなずいたりとほほえましい場面が見られました。昨年の4月から保育園と職員の交流や互いの保育参観、授業参観も行ってきました。総合的な学習の時間に練習した劇や発表に保育園に出かけた学級もあります。このような活発な幼保小の交流は、実に4年ぶりです。お互いに多くの学びがあったと思います。

校内でも、ペア学年での異学年交流を行いました。上の学年の子たちは、下の学年の子をリードしたりやさしく見守ったりし、下の学年の子たちは、上の学年の子たちのふるまいを見て人とのかかわり方を学び、思いやりを感じたことでしょう。また、総合的な学習での劇の発表を体育館で行う学級、クラブ発表の体育館での実演発表など、自分たちから積極的に発信する場面も多くみられました。また、環境について学んできた学級は、フードドライブについて広く伝え食について考える機会をもたせてくれました。自分たちが栽培したイネについてまとめ、次の学年に伝えた学年もあります。そして、児童会活動では2月の初めに、能登半島地震の被災地への義援金の募金活動を行い、多くの志が集まりました。被災地では、まだ多くの方が避難生活を送られています。被災地の皆様の一日でも早い復旧・復興をお祈りします。

このように、子ども達は今年になって、学習や活動を通して、多くの人とのつながりやかかわりについて感じ・考える機会を多くもてたように思います。

今年度も残すところ3月のみとなりました。子どもたちが一日一日を大切に過ごしていけるよう教職員一同努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃よりのご理解ご協力に感謝申し上げます。